教材研究ノート№2-A-14

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・九九の仕組みを理解し，暗唱している。

・何のいくつ分で，「ぜんぶ」が求められることを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・ぜんぶは，それぞれを加えればよいことを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・乗法と加法が組み合わされた3要素2段階の問題を解決する経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・種類の違うものは，かけ算では計算できないことを学習している。

≪学習問題≫

1まい　9円の　色紙を　4まいと，

80円の　えんぴつを　買いました。

せんぶで　なん円ですか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫



②見通し:色紙と鉛筆の2つだから，かけ算が使えるか分からない。

→色紙のねだんは，何のいくつ分が使えそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:色紙のお金を何のいくつ分を使って求め，鉛筆の値段と合計させて，全部のお金を求めよう。

③個人追究:図をかいて，合計の金額の求め方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのやり方にも共通していることは何だろう？」

→「色紙のお金を，九九を使って何のいくつ分で求めている。」

「色紙のお金とえんぴつのお金をたして全部を求めている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「どうして，ひとつの九九では計算できないのか？」

→「種類の違うものは，ひとつの九九の計算ではできない。」

「九九で計算できる部分とできない部分を分けて考えて，それぞれの代金をたせばよい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・何のいくつ分で求められる部分は，九九を使って計算する。

・九九で計算できる部分とできない部分を分けて考えれば，わかりやすく計算できる。

⑥定着･活用問題

(1) おかしが4こずつ　5列入っています。

3こ食べると，何こ残りますか。

(2) ひろしくんは　スーパーで　次のような

計算をして買い物をしました。式に合う問題を作りましょう。

8×7＝56　56＋90＝146　　代金　146円

**MCj04157520000[1]**

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・挿絵を使って，買い物の場面を想起させ，これまでの問題との比較から，2種類のものを買っていることや何をいくつ買ったかを十分とらえさせ，複数の演算である見通しを持たせたい。

・共同追究では，どのように考えたのかを絵図や式と対応させながら，九九の計算ができる部分とできない部分に焦点を当てて話し合わせたい。

【板書計画】